

Y4-09

リスクマネジャー養成のためのワーク
ショップを開催して

高山赤十字病院 医療安全推進室
牧戸 澄夫、小邑 昌久、中上 一彦、
仲 初恵、脇田 勝次、西尾 優

医療事故防止活動には病院経営者層のトップダウンの活動だけでは十分でなく、現場の医療安全推進者の役割が大きく、活動が遂行できるように人材の育成が必要である。そのため平成10年・11年に中部ブロックでリスクマネジャー - (RM) 養成のワークショップ (WS) が名古屋第二赤十字病院で開催され各2名が参加した。それを受け当院では毎年1泊2日のRM養成のためのWSを開催している。平成22年11月で10年間継続する事が出来、236名のRMが誕生した。その“あゆみ”と主催事務局での“管理継続”にあたり、活動の取り組みと今後の課題について報告する。

Y4-10

参加しやすい医療安全研修会
～医療安全フェア開催～

高槻赤十字病院 医療安全課
酒井 美幸

【はじめに】医療安全研修会は全職員を対象に、年2回以上開催することが義務づけられている。当院では研修場所の収容人数に制限があることや、特定の職員による参加状況や、多忙な業務の中で研修を優先的には出来ないことなど、研修会離れにあるのではないかと危惧していた。そこで、全職員が興味深く主体的に参加してもらえるよう展示型研修会を企画し、その評価を得たので紹介する。

【方法】インシデントレポートの集計や新しくマニュアルに追加した内容、感染対策上の取り組みなど医療安全10項目と感染対策10項目を各ポスターにまとめ、講義室に掲示した。会場は午前9時から午後7時までオープンとし、各自が都合の良い時間帯にポスターを供覧し複数回の来場も可能とした。

【結果】2日間の開催により全職員の約73%の参加があった。参加人数の多かった時間帯は12時～13時台、16時～17時台であった。

【考察】参加者からの意見として、「自分で時間を調整して参加できるのが良かった」、「自分の興味に合わせて見られてよかった」、「他の部署の取り組みが参考になった」、「写真やグラフで示されわかりやすく、あらためて危険と認識できた」などの評価が得られた。ポスター作成者からは、何を伝えるか考えること自体が安全について再認識する機会となった。負担にならない時間設定や興味深い内容、情報の提供により参加しやすい研修会となった。様々な職種、部門で協力した医療安全の取り組みを作成し紹介することは職員一人ひとりの参加意識を高めることに役立つと考える。